



2002.3.31 No.36

● sapporo

## 寺っ子あつまれ！

青少年部では今年も門徒子弟一泊キャンプと青年の集いスポーツ大会が行われました。

7月25日から26日に行われた札幌別院との共催による門徒子弟一泊キャンプでは、天候にも恵まれ、真狩村の羊蹄自然の家を貸し切り、61名の参加者とスタッフで元気いっぱいのびのびと楽しく、大自然の中で仏の子として生かされていることを自覚し、共に友情を深めました。スタッフには、札幌龍谷学園の高校生7名にも協力いただき、各班のお姉さんとして活躍してもらいました。25日は開会式・探検ハイキング・入浴・キャンプファイヤー。26日は仏参・運動会・流しそうめん・閉会式・アイスクリームづくりと盛りだくさんのプログラムで、子供も大人もすばらしい思い出が出来たと思います。

今年も盛大にキャンプを計画したいと思いますが、それにくわえて、稲作に挑戦します。田植えと稲刈りを体験し、自分で作ったお米で、お仏飯をお供えしたいと思っております。

青年の集いスポーツ大会は、12月1日東区のおゆみ幼稚園をお借りして、高校生から青年まで、30名以上の参加をいただき、ミニバレー大会をしました。優勝は前回に同様松雲寺チームが連覇をかざりました。つよいですね～。普段から体がなまっている私達は、翌々日がとてもつらかったです。スポーツの後は、慧燈寺様に移動して、お詣りのご法話をいただき、おいしい牛肉で焼き焼きをいただきました。

今年は成人式も計画いたしましたが、残念ながら参加者が1名ということで、中止となりました。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。



大自然の中ハイキング



充実感いっぱいの笑顔



なれない正座とご法話 がんばりました

（門徒子弟一泊キャンプスナップ）



真けん・無口でひたすらはしが動く



## 札幌組 定期組会が行われました

札幌組の定期総会が、3月31日札幌市内のロイヤルホテルで、僧侶・門徒37カ寺47名の出席により行われました。

例年のとおり、開会の先立ち「宣誓式」が行われ、竹澤一深副組長の調声により勤行、引き続き門徒議員を代表して光明寺の小池氏が宣誓を行いました。その後、組会が開会となり、組長のあいさつに引き続いて、北広島市興徳寺の藤田憲昭氏が議長に選任され、議事に入りました。内容は、平成13年度各部事業報告・決算、平成14年度各部事業計画・予算等が審議され、いずれも原案どおり承認、あわせて教区会報告が行われました。

議事終了後は、会場を隣りに移して、懇親会が行われ閉会となりました。

### 書評

## 『親鸞と一遍』 竹村 牧男 著

定価/2,800円+税 発行所/法蔵館

「それにしても、これほどまでにあらゆる局面において対照的なのは、実に興味深いことである。しかしながら、何と云っても、最も重要な対照的性格は、その念仏思想そのものにおけるそれである。親鸞と一遍の念仏思想は、浄土教の共通の深みを汲みつつも、しかも根本的に対象的なのである。その共通の深みというのは、二人とも自力というものを徹底して否定し、自分で自分をどうにかしなくてもよい、どうにかできるものではない、とはっきり自覚して、阿弥陀仏の本願に帰入しているところである。

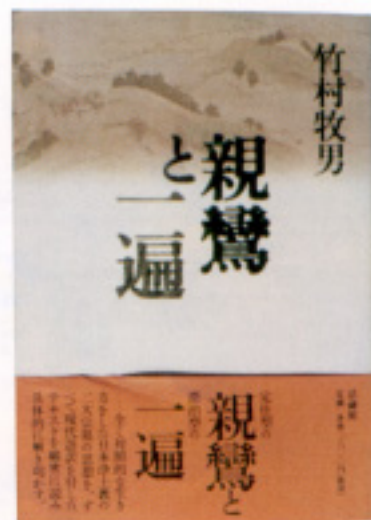
一方、違いといえば、親鸞の信の立場に対して、一遍の信・不信を問わない立場、あるいは親鸞の絶対他力の立場に対して、一遍の自力・他力を超える立場、要をいえば親鸞の信に対し、一遍の名号……」  
本書「親鸞と一遍の浄土教」より

私たち真宗学徒の多くは、なにはともあれ聖教を繰り、親鸞に直参しようとしてきた。けれども、それほど聖人のお心に出遭うことができたであろうか。案外、私たちは「森に入りて森を見ず」で、聖人の懐のなかにおりながら、聖人の実像を知ることなく過ごしてきた一面があるように思われる。

この書は、中世という末法の時代を、阿弥陀仏信仰に生きた二人の生きざま、思想の違いを明らかにしようとしたものである。

定住型、神祇不拝の親鸞、漂泊型、神祇尊重の一遍とさまざまな局面において対照的であることを、二人の著作と生きざまを通して示し、興味のつきない書となっている。

著者があとがきで述懐していることであるが、「一遍と対比したとき親鸞がよく見えてき、親鸞と対比したとき一遍がよく見えてくるという事情は歴然とあって、さらにこの二人をともに考察していくことは、浄土教そのものの理解に多くの深みをもたらしてくれた」一書であった。





## 寺族婦人会の一年の軌跡と新年度におけて

久朗津静慧

会長に就任以来、皆様に助けられ支えられて今年一年無事に過すことが出来、ありがたいものと感謝しております。6月には「念佛の声麗しく・いのち輝く」をスローガンにかかげ、第27回全道仏婦大会がお裏方様をお迎えしまして釧路市民文化会館で行われ、寺族婦人の方々も多数参加されました。仏婦の方々も札幌組から百五十名ほど参加され、坊守さん達と和気あいあいのうちに交流し親睦を深めてまいりました。7月には今後の高齢社会に向けて『笑うかどにボケが去る』というテーマで痴呆についての研修会を行い、8月末には青少年部と共催の親睦ポーリング大会、11月には新築された法城寺さんを訪問させていただき住職さんにご法話もいただき、近代的な建築に色々参考になりました。また12月の上旬には仏婦連盟主催の一泊研修会が定山溪であり、坊守さん達も多く参加されました。今年度は東札幌病院の副院長の石垣靖子先生より「輝いて生きる、いのちを見つめて」というテーマのもと、ホスピス病棟の現場から、命の大切さ、生きることのすばらしさ等感動的なお話をきかせていただきました。上山知現先生からは、お荘厳についての研修があり色々勉強になりました。前述の全道仏婦大会やこの一泊研修会を通して、仏婦の方々と坊守さんが寝食を共にし、お互いの絆が深くなり、とかく敷居が高いと云われているお寺と門信徒の方々がお互に気心がわかり、お寺の活性化にもつながると思います。今後ともこのような機会を多く持ちたいものです。また今年度（平成13年度）は各ブロックごとの話し合い・親睦会も持たれ、第一ブロックでは住職さん達も参加され、太美銘泉で楽しいひとときを過ごされたそうです。要望が多いので新年度もこの企画を取り入れる予定です。今年度最後の行事は、料理講習会でした。安楽寺さんを会場に「十人十色」の板前さんに指導していただき、色々調理のヒントが得られ、2時間ほどで6種類の料理が出来上がり、おいしくいただきました。これからこの時に学んだ料理が各お寺の食卓にのるのではないのでしょうか。楽しみにして下さい。本年の6月25・26日には北海道教区寺族婦人会連盟の30周年記念の行事が予定されており、今、色々準備しています。26日にはお裏方様をお迎えして音楽法要・記念式典が行われ、各組から一名ずつ内陣出勤の方が選ばれ、札幌組からは千正寺の高塚もも子さんが出勤されることになり、また献華献燈には広大寺の佐々木智子さんが出られます。記念式典の後に雪山玲子さんの記念講演もあり、夕方にはレセプションも計画されております。25日・26日の午前中には坊守式も予定されており、盛大な記念行事になるように多くの方の参加をお待ちしています。最後に住職さん達に一言ですが、婦人会の行事の折には坊守さんが参加しやすいように御協力おねがい致します。坊守さん・若坊守さん・寺族の皆さんが気がねなく、何でもお話ができ悩みなども打ち明けられるような会にしていきたいと思っております。

合掌



安楽寺様で料理講習会



新築された法城寺様へ訪問



## 教区基幹運動の動き

教区会議員 打本 顕真

教区基幹運動は宗派の重点項目にそって、その具体化をめざして取り組んできました。

教学面では、「信心の社会性」をどう受けとめるかについて、浅井成海師に三年連続して出講していただき、僧侶研修会を実施してきました。差別問題への取り組みについては差別事件をふまえて全組の組巡回学習会が行われてきました。また、水平社発祥の地を訪ね、水平社博物館・大阪リバティを見学する等の現地学習会が行われました。千鳥ヶ淵墓苑での全戦没者追悼法要に参列し、靖国神社での現地視察と学習会も行われました。門徒推進員・連研履修者研修会を本年度は、大会場で開催するなどして、地域への浸透をはかりました。教区基推委の動きが、少しでも教区内に見えるようにしていきたいとの願いのなかで推進してきましたが、広域な教区であるためか、困難をきわめています。

これまでの運動の経緯をふりかえりつつ、二〇〇二年度は、「門信徒と僧侶の課題の共有」、「男女共同参画」、「御同朋の願いに応える教学」、「御同朋の社会をめざす運動を担いうる同朋教団の再生」を課題としつつ、それぞれの部門での取り組みを進めていくことになっています。

教区基推委の最大の関心は、基幹運動の理念と具体的な課題を、いかにして組におろしていけるかということです。教区基推委の役割の中心は、運動理論の構築にあります。組基推委は、その運動理念が具体化する実践の場であると思います。ですから、教区と組が連携した運動を推進してはじめて、ゆるぎない基幹運動となっていくと思います。

第3期僧研が始まっています。札幌組は、近年連続して起きた差別事件のうち、いくつかの事件の当該組でもあります。事件に学び、実践に学び、「差別を克服する」ために、なにをしなければならないのかを、一人ひとりが深く自らに問う作業を通して、少しずつ運動は推進されていくことであらうでしょう。

## ニューフェイス

### 乗善寺 藤田 幸範

私が乗善寺で法務を手伝わせて頂くようになって早一年が経ちました。

最初は何をしていいのかも分からず不安ばかりでしたが、皆様の支えにより何とか続けさせて頂いております。

昨年9月頃からサッカーの中田英寿選手を意識してヒゲを伸ばし始めたのですが、タイミング悪く『タリバン』と呼ばれてしまう今日この頃です……。

普段はいたって普通のサッカー好きの25歳。ヒゲ面の見た目とは違い、実はナイーブでものすごく臆病。さらにジュース一本買うのにも結構時間がかかってしまう優柔不断なぼく……。

話を戻しますが、次男ということもあり僧侶になるつもりがなかったのですが、祖母が亡くなったことが機縁となって、現在、僧侶として生かされている次第であります。おばあちゃんっ子であった私を、祖母が身を以って導いてくれたのだと感謝しています。

まだまだ未熟な私ですが、皆様と一緒に成長させて頂きたく思います。御迷惑をおかけしますが、何卒宜しくお願い致します。

合掌

\* \* \* \* \*

### 浄円寺 山口 教文

私が京都の中央仏教学院を卒業し伝道に携わる事になって、早いもので1年になります。まだまだ未熟ではございますが、正信会の皆様並びに、日々暖かいお言葉を頂戴し勉学布教の励みとなっております。

先日も門徒の老婦人の方より「いつもいつもありがとうございます」と、深々と頭を下げて頂き、この伝道がどれほど大事であり、阿弥陀如来に対して感謝の意を表現して頂いた事が大変有り難い思いでございました。

未だ未熟な私ではありますが、皆様の御指導・御鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げますとともに、日々伝道布教に励む所存でございます。

合掌





## 見真寺坊守 由良 幸子

## 《嫁いでからの想い》

私が見真寺に嫁に来たのが昭和四十年の秋、正面入り口すぐに本堂、木造で一面障子、思えば障子を外しきれいに洗い、乾くと作った糊をハケで丁寧にサンにぬり障子紙を上手につけて張り、きりを吹いて仕上げる作業を二三日かかって張替えたことが思い出されます。約四十年になろうとしている今、私の坊守としての立場はこれで良かったのかと思案することが有り、他寺の坊守さんと仲良くお付き合いしていただき、話をしている中で色々勉強させていただいている私です。

現在の私を育ててくれた今は亡き前坊守の教えを思いながら檀家さんと色々な、話し合いをしていきたいと思う今日この頃です。



## 《これからの抱負》

最近親しい人に逢うと、もう歳なのね、何をするにも身体が付いてこないとの声、若い時はすんなりこなしていた事が最近は無理になって来たようです。

これからはノンビリ、何事にも無理をせず、お寺を守る手助けが出来たらと思っております。

## うちの坊守さん

## 円静寺坊守 藤原 訓子

## 《嫁いでからの想い》

お東の寺に生まれ育った私は、学生時代京都で過ごしておりました。ある日一人で散歩をしていて東山にある西大谷本廟に出ました。そしてそこで本堂の前に座って合掌している時に、心に安らぎが満ち満ちて、やっぱりお寺が良い、お寺にお嫁さんに行こうと思ってしまいました。こちらに嫁ぎ、先代住職と先代坊守に教え育てられ、少しずつ“寺の生活”に馴染んでまいりました。失敗したり考えさせられたり毎日の連続が、いつのまにか30年近い年月を過ごしてまいりました。でもやはりお寺で良かったと、皆様との触れあいの毎日で感じている私でございます。



## 《これからの抱負》

寺の者と檀家の方々とはお互い永い御縁でつながっていると、お寺で過ごしておりますとしみじみと感じてしまう事がとても多く、殺伐としている日々の中で、お寺にきて少しでもホッとできる、そんな方達が増えて下さればと思います。又婦人会の会員の方も寺に集まる事が多くなり、共に聞法に励み次世代につながっていくようがんばっていきたくと思います。

## 《趣味》

読書と旅行です。



## フ リ ー コ ラ ム

## 「御門徒Sさんと先生の師弟愛」

今月の3月の始め、月参りの折りに、御門徒のSさんから教わった事があった。いつもお寺の法座では一番前に座り、法話を「ウン、ウン」と聞いてもらっている。Sさんは80才前後の女性である。(この話を本誌に掲載する事を本人に断っていないのでイニシャル名にする。)

Sさんは三味線を20年以上続けている。(本人曰く「忘れないために、普段の日課として朝と晩に復習をしている」。)でも、私はSさんの三味線を弾いているところを、未だに見た事も聞いたこともない。そのSさんには三味線の先生がいた。聞くところによるとSさんは先生に、他の生徒さん達の復習を任される程、信頼されていた腕前である。先生は一昨年亡くなった。その先生が危篤状態の時に、病院から先生の娘さんがSさんに電話をくれた。その時、Sさんは「私が行くまで待っていて」と言ったそうである。先生は待っていてくれた。しかし、間もなくして先生は息を引き取った。

先生の娘さんが「自分達は弾けないので代わりに父の三味線を使って欲しい」とSさんに言われたそうである。その三味線はSさんの家の仏壇の横に置いてある。Sさんは毎朝、先生の三味線のケースを開けて、そこに向かって「先生、おはようございます。今日もよろしくお願いします。」と両手を床につけて、ご挨拶をしてから三味線の復習をするそうである。(実際、ご挨拶の部分私の目の前で再現してくれた。)続けて、Sさんは「こうしていると先生がいつも一緒にいると思えてくるの、おかしいでしょう、若さん、あはは…」とおっしゃったので、私は首を横に振って小泉首相のものまねで「感動した」と言った。とても目頭が熱くなり、Sさんが愛らしくて堪らなかった。そして、亡くなっても生き続ける師弟愛の素晴らしさを教えて頂いた出来事であった。

## 正 信 会 関 連

## 正信会45周年記念事業のお知らせとご協力をお願い

正信会は諸先輩方並びに各寺院のご住職、ご家族、ご門徒の皆様のおかげさまを持ちまして、来年(2003年)に発会45年目を迎えさせて頂く事となりました。これもひとえに皆様のご支援、ご尽力の賜物であると感謝致します。

この度は記念事業として、演劇公演、記念式典、記念旅行を執り行ないます。その中の演劇公演を本年11月25日かでの2・7にて開催致します。日本の戦争責任をテーマとした『再会』(東京の劇団IMAGINE21)という劇であります。

昨年、劇団代表の渡辺義治氏より当会へ公演の実行委員会発会の依頼がありました。そこで、当会としましては日本の侵略戦争によって引き起こされた家族の事実と向き合い、どのように引き継いで行くか、を見つめると共に、私達の子孫や未来のいのちに、戦争の悲劇をどのように語っていくか、を考える機会であると思ひ、演劇公演を開催する運びとなりました。そして、記念式典、記念旅行については、来年に予定しておりますので、内容が決まり次第お知らせ致します。

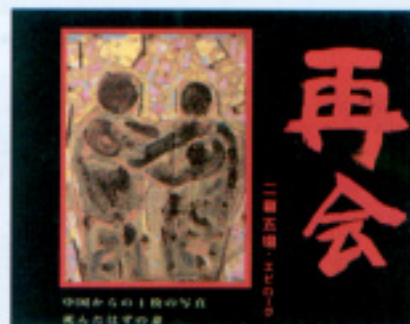
この45周年記念事業を盛会にしていきたいと思ひますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

## 演劇公演

日時/2002(平成14)年11月25日(月) 開場/14時30分 開演/15時  
会場/かでの2・7 チケット代/2,500円

## 演劇『再会』のあらすじ

中国から引き揚げ、町工場を営む・新三(しんぞう)のもとに一枚の女性の写真が届けられた。戦争の混乱の中で離ればなれになった、かつての妻で、中国残留婦人として一時帰国していた治(はる)だった。新三は再婚し、子供もいる。半世紀を経て届いた妻の生存の知らせに呆然と立ち尽くす新三。二人は「再会」を果たすのだが…。





6月24日 法城寺

開教50年記念慶讃・本堂等落慶・二世住職継職奉告法要

当日9時半に花火の合図で、雅楽の奏でる中、庭儀（稚児行列）が始まりました。そして、午前11時より開教50年記念慶讃・本堂等落慶・二世住職継職奉告法要が併修されました。引き続き正午から記念式典が行われ、その後、場所を隣の札幌サンプラザで記念祝賀会が賑やかに開催されました。翌日は、報恩講法要が厳修されました。



7月8日 寶流寺

開教百年記念慶讃・本堂等落慶・第四世住職継職奉告法要

前日7日には午後1時より報恩講法要が修行されました。当日8日は、午前11時より寶流寺様の開教百年記念慶讃法要が修行されました。そして、午後1時から住職退任式、住職継承式に引き続き、第四世住職継職奉告法要が厳修されました。引き続き記念式典が執り行われ、その後午後4時からグリーンホテル札幌に会場を移して、記念祝賀会が賑やかに開催されました。

